

厚生労働省神奈川県労働局  
平塚労働基準監督署発表  
令和4年6月30日(木)

令和4年6月30日

【照会先】

平塚労働基準監督署

署長 柴田 英彦

安全衛生課長 林 太郎

(電話) 0463(43)8615

## 全国安全週間に向けて ～630～労働災害ゼロの日パトロールを実施

平塚労働基準監督署(署長 柴田 英彦)では、第13次労働災害防止推進計画(平成29年から令和4年の5か年計画)の最終年にあたる今年、管内(平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町)における労働災害の更なる防止を図るため、全国安全週間を実りあるものにするため「630」(労働災害ゼロ)の日を設定し周知啓発に努めています。

自主的な労働災害防止活動を展開している古河電気工業株式会社平塚事業所の協力のもと、令和4年6月27日、安全パトロールを実施しました。

### 1 背景

平塚労働基準監督署の管内では、近年、労働災害が大幅に増加しており、本年も休業4日以上  
の死傷者数は、5月末の時点で242人と前年同期比で52人増加(27.4パーセント)と増加傾向が  
続いています。

そこで、平塚労働基準監督署では、6月30日を労働災害ゼロの日と定め、全国安全週間の本週  
間に備え、実施要綱で定める各種実施事項が遵守・実行されているか確認することなどを、各企業の  
事業者(トップ)および安全衛生担当者へ総点検を呼びかけることとしました。

### 2 パトロール目的

大手製造業の現場で取り組まれている安全衛生活動の内容は、他の事業場にとっても労働災害  
を防止する上で好事例となります。各社がその内容を参考に現場で行う安全衛生活動へ積極的に  
導入を進めることにより労働災害を防止する上で効果を発揮することが期待できます。

今回は、平塚労働基準監督署管内において高い水準で安全衛生管理を行っている古河電気工  
業株式会社平塚事業所の現場パトロールを実施し、取り組まれている活動内容を発信することによ  
り、地域における安全衛生水準を向上させることを目的としました。

### 3 パトロール概要

(1)日 時 令和4年6月27日(月)午前

(2)対象事業場 古河電気工業株式会社 平塚事業所(平塚市東八幡5-1-9)

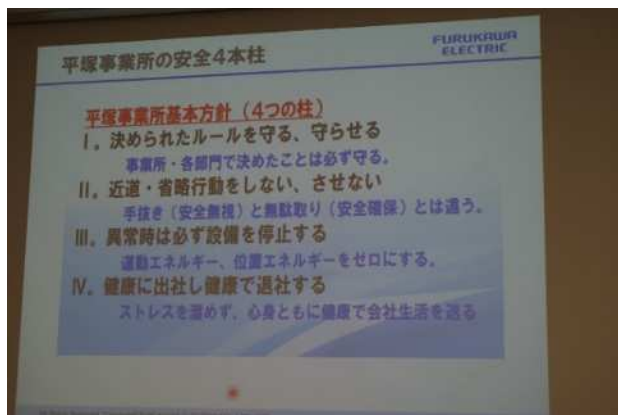
(3)実施者 平塚労働基準監督署 署長、安全衛生課長、ほか6名

#### 4 パトロール状況

パトロールの開催にあたって平塚事業所所長様から事業所の概要、当日のパトロール工程、構内の安全ルール、事業場における安全衛生の基本方針などの説明を受けました。

##### 【安全ルール】の例

- 1 挨拶は「ご安全に！ご健康に！」
- 2 構内立ち位置マークでの「指差称呼」
- 3 構内&工場では作業服・安全靴・帽子の着用
- 4 ~ながら歩行・走行は禁止
- 5 安全4本柱の遵守 →
- 6 事業所内全面禁煙



#### 安全道場(体感)

平塚事業所では過去に発生した災害について、従業員が「怖さを体験できる」教育設備として、



2020年に安全道場(左上写真)を企画・設置しました。これまでのべ200人以上がこの安全道場にて安全教育を受講しており、2022年3月には新たにVR(仮想現実)技術を導入しリニューアルが図られたところです。



まず体験したのは、フォークリフトの死角体験です。平塚事業所でもフォークリフトの使用頻度が高く、多くの業種で使用する機会が多いフォークリフトについて、運転席の着座位置からオペレーターから見えない位置(マストやバックレスト、ヘッドガードの支柱など)を疑似的に体感できる設備を常設し、フォークリフト運転時の死角を体験することにより安全運転に資するよう教育を実施していました。(左下写真)

安全道場内のVRトレーニング(安全体感)では、担当者様から説明を受けたのち、回転機械による「はさまれ・巻き込まれ」、フォークリフトによる「激突され」、高所作業による「墜落・転落」などのシーンについて不安全行動の疑似体験をしました。



回転部に手をはさまれるシーン。  
事故の型:「はさまれ・巻き込まれ」



平塚労働基準監督署長もフォークリフトによる「激突され」を体感。



高所作業における「墜落・転落」災害体験。  
扇風機を用いて疑似的に高所の強風を再現。



VRゴーグルを装着した者はリアルな疑似体験をすることができ、周りの参加者も外部モニターで同じ映像を見ることにより追体験できるものでした。疑似体験後には、被災者、他の運転者(作業員)、第三者などの様々な視点から再確認することができ、個別に原因を確認していくことが可能で、また、繰り返し何度でも臨場感のある体験をすることが可能となっており、さまざまなシーンについて効率よく経験を積むことができるものでした。

現在、平塚事業所では、VRトレーニングをはじめとした安全道場での安全教育は、一度に2人1時間を基本構成とし、内容をしっかりと経験できるよう充実した安全教育を実施していました。

また、災害パターンについては現在23種類ほど体感でき、今後も現場からの要望を元に災害事例を増やしていく予定と説明がありました。



## パトロール

平塚事業所では独自の発泡技術を駆使した高機能素材で様々な用途の製品を製造しており、その製造過程について安全パトロールを実施しました。

工場内は機密事項の関係でパトロール写真の掲載はできませんが、冒頭紹介した安全ルールや安全4本柱を基本に、安全通路における人と物の通行帯を分離(歩車分離)、3Sを基本とした5S活動の徹底による整理・整頓が行き届いた作業環境の維持、各生産設備における「はさまれ・巻き込まれ」防止対策の徹底、製品の搬送時などの「腰痛予防」対策のための省力化、設備メンテナンスや原料の取り扱いなど点検構台など昇降時の「墜落・転落」防止対策などが徹底されていました。

平塚事業所では安全対策検討会におけるリスクの洗い出し～評価～改善の流れで、リスクアセスメント活動が確実に実施されていました。また、社内独自の安全レベルが設定(5段階で5が最高レベル)されており、すべての安全対策をレベル4以上とするよう自主的活動が進められていました。

## 5 講評、意見交換

安全道場を体験した感想をはじめ、生産工程における好事例などについて、意見が交わされました。安全道場については、設置の経緯、ソフト開発の流れ、事例収集、活用事例などが話題に上がりました。

生産設備に関しては、はさまれ巻き込まれ対策や腰痛予防対策、職場の整理・整頓による好環境の維持などについて、



好事例として話し合わ

れました。  
また、工場内の照明方法など、非定常作業ところ、リスクアセスメント先順位が設定されておが組まれているなど懸も先取りの安全管理がた。

設備やその交換時のに注目した質問が出たトの結果に基づいて優り、交換等の作業計画念される事項について行われている状況でした。

最後に平塚労働基準監督署長から、古河電気工業における経営理念にもある「3つの大切」のうち「従業員を大切にせよ」について、本日のパトロールにて現場の安全衛生管理活動、労働災害防止活動の基本事項として落とし込まれ、誠実に活動が行われていることが確認でき、有意義なパトロールであったこと。今後も引き続き、安全衛生活動を充実させ、地域に好事例を発信してもらいたい旨などの講評がなされました。

## 6 雑感

この安全パトロールを通じて、先駆的な労働災害防止活動を実施している古河電気工業株式会社平塚事業所の安全活動を確認しました。

労働災害は一度起これば、人材の損失に留まらず、種々の補償など金銭面でのコストも強いられます。

各事業者様にあっても、紹介した安全活動を参考に、第95回全国安全週間を機に個々の職場における安全衛生活動の総点検を実施いただきたく存じます。労働災害ゼロを目指して、できることを一つずつ、実践していきましょう。